

令和6年度 厚木市障害者協議会 第2回 実務者会議

日 時	令和6年10月3日（木）午後2時から午後4時まで
場 所	アミューあつぎ amyu スタジオ
出席者	<p>○委員</p> <p>神奈川県精神科病院協会 厚愛訪問看護ステーション連絡会 厚木市身体障害者福祉協会 厚木市手をつなぐ育成会 厚木市自閉症児・者親の会 精神保健福祉促進会フレッシュ厚木 厚木地区知的障害施設連絡会 厚木市障害者福祉事業所連絡会 厚木市・愛川町・清川村地域精神保健福祉団体連絡会 厚木市居宅介護事業所連絡会 神奈川県総合リハビリテーション事業団七沢自立支援ホーム 厚木市民生委員児童委員協議会 厚木市児童発達支援センター ひよこ園 相談支援事業所連絡会 厚木市地域包括支援センター 厚木市教育委員会 特別支援学校 厚木公共職業安定所 障害者就業・生活支援センターぼむ 厚木児童相談所 厚木保健福祉事務所 厚木市社会福祉協議会 厚木市地域包括ケア推進課 厚木市障がい福祉課</p> <p>○事務局</p> <p>厚木市障がい福祉課 厚木市障がい者基幹相談支援センター</p>

1 開会【司会：厚木市障がい者基幹相談支援センター】

2 議題

(1) 日中サービス支援型共同生活援助の開設説明について

質疑応答

○厚木市自閉症児・者親の会

ご説明ありがとうございました。日中支援型のグループホームはニーズがあるので、募集すればすぐ定員になってしまうと思うんですが、期待は大なのかなと思います。

私としてはやはりスタッフの専門性っていうのを重視しておりまして、日中支援型ですとやはり支援の方法が不十分でなかなか利用者さんが辛い思いをしているとよく聞いておりますので、スタッフの方への専門性の研修システムですとか、スーパーバイザー的な方を設置してらっしゃるのか、そういうあたりをお聞きたいと思いますのでよろしくお願ひいたします。

○トゥルーブルーホーム戸室

スーパーバイザーというわけではないんですけども、職員の方に20年くらい障がいの方でやられていたサービス管理責任者を決めております。なかなか、障がいの特性というのは一人ひとり違ってくると思いますので、その見極め等を率先してサービス管理責任者の、いとうという者なんですけれども、いったん彼女におろしてからちゃんと職員に伝達するように、システム作りと言いますか、必ずと言っていいほどそういうことをやってから、ちゃんと入居の判断をしていこうかなと考えております。

それとスタッフはわりと資格をお持ちの方が多くてですね、私も含めて介護福祉士を持っていたり、社会福祉主事を持っていたり、強行の研修資格を持っているものもおりますし、強行は今回身体障がい者がメインなので、ご入居という形にはならないと思うんですが、そういった感じで今後も積極的にいろいろな資格、またその講習等、外部講習ですね、それを受けるような形を考えております。

○会長

職員はベテランの方がいらっちゃって、有資格者の方もいらっしゃる。

○トゥルーブルーホーム戸室

そうですね、基本的には全く福祉を、特に障害をやったことがないという方は一人もいない現状です。ただ、今後その新しく入ってくる職員の方に関しましては、あまり経験がないという方がいらっしゃると思いますけれども、会社内で社内研修を月1回行いますし、社外研修も出られるものでしたら、接積極的に出てもらってより技術だったり、感性だったりを磨いてもらえればいいかなと考えております。

○会長

あとグループホームによっては、名前も聞かずに受けてくれたりするところもあるんですけど、やはりその判断は大事ですよ。

○トゥルーブルーホーム戸室

そうですね、私も一応大きいところにはいましたけれど、状況を全くわからない、体験もしないでそのまま入れてしまうということは私は大反対で、これは利用者さんにとって何のプラスもないので、必ず体験入所をしていただきます。その中で職員の技量だったり、先に入られている入居者様との兼ね合いとかも含めていろいろ見て判断させていただいて入居という形に進めていく予定です。

○厚木市自閉症児・者親の会

入居費用はどのくらいかかりますでしょうか。

○トゥルーブルーホーム戸室

入居費用は一応厚木市の補助金内の42,000円、あとは電気代とかいうものは実費でいただくことになると思います。食費は基本的に1食300円、月換算で27,000円、3万円弱で一応考えております。

○厚木市自閉症児・者親の会

だいたい、10万円くらい、の予定。

○トゥルーブルーホーム戸室

そうですね、だいたい10万円前後という感じです。

○厚木市手をつなぐ育成会

これは、オープン前に見学会とかされますか。

○トゥルーブルーホーム戸室

そのつもりでおります。現状10月終わりくらいから改修工事、建物は現状建っているんですけどその中の改修工事が入りまして、年末年始が入りますが12月半ばあたりからグループホームの見学といろいろなご説明にあがる機会が、そのあたりでいろいろとできてきてるんだと思うんですけど、一応考えております。

○厚木市手をつなぐ育成会

そのときに相談支援事業所に連絡いただけるということでしょうか。

○トゥルーブルーホーム戸室

もちろんでございます。

○厚木市手をつなぐ育成会

申し込み順でしょうかね。

○トゥルーブルーホーム戸室

12月、改修工事が終わった時点でみなさまにご連絡して、その時はまだご利用様どなたも入ってらっしゃらないので、時間を、日時や時間を指定して頂ければ、私か、他の職員が同行いたします。

○会長

すぐうまってしまいそうですね。

○トゥルーブルーホーム戸室

そうですね、ただ、バランスを考えて私の個人的な考えになってしまうんですけども、利用者様だけでなく、職員も健全な状態でないと、そういうのが現場で職員からのあれがあの、ご利用様に波及するので、本当に現場で何十回、何百回と見てきていますんで、あの本当にそういうことがないように、フェアにご利用様にもこういう状況だったら、こうします、とおっしゃっていただけるような、また会社としても、いらしてくださいという思いとか職場とかいうか、環境づくりとかいうか、最初から言っていないと途中からっていうのは無理だと思いますんで、最初の段階で強めにうちの職員に対してもそうですし、協力機関等に対してもそうした説明をしている最終です。

○会長

利用者の方とマッチングも大事だし、職員の確保もそうだし、支援の質の担保、維持をしていくのも難しいなと感じてはいるんですけど、そこも先を見据えて考えてらっしゃるホームさんだなど、思いました。

○トゥルーブルーホーム戸室

私も、現場出身なので、理不尽なことさんざん言われたり、そういうことは絶対ないように、職員にの方に対してもそうですし、職員同士でも、また利用者さんに対してもそういったことがないように、最初から気を付けないといけないなというふうに考えております。

○会長

名前はあれですけど、大手だとどんどんホームができてきて、職員が育ったらすぐ異動で

経験者になってしまって、そこで質がどうしても担保ができないとか、それがたぶんあるんだと思うんですけど。

○トゥルーブルーホーム戸室

職員のためになる講習とか、どこで開いていると、教えていただければすぐにも職員を連れて行くくらいの気持ちでいますので。これからもご指導、ご鞭撻いただければと思っております。

○会長

ありがたいお言葉で。おそらくこれから今日の会議の中で情報提供等取組みの報告、あると思いますので。質問等なければ、これで。今後ともよろしく願いたします。

(2) 令和6年度各プロジェクトの取組について

質疑応答

○厚木市自閉症児・者親の会

今お話していただいた以外のことでいいですか。一貫した療育・子育て支援プロジェクトのマイサポートブックのことなんですけれど、なかなか学校と連携するのが難しいとお母さま方から聞くんですね。マイサポートブックを持っていても、先生が見せてって言わないから出せないとか、見てくださって言いにくいっていう声もあるんですが、その辺は学校との連携ができていっているのでしょうか。そのあたりをお聞きしたいんですが。

○事務局【厚木市障がい者基幹相談支援センター】

先月の終わりに一貫した療育・子育てプロジェクトがありまして、マイサポートブックの件について話しをさせていただきました。普及・啓発のところまではいったけれど、利用のところが弱いというのが課題としてあがっていて、なので、第2回のプロジェクトではどうやったらこれが利用できるのかなっていうことをみなさんに事務局からの案として、お話をさせていただいています。

リレー小説のように親御さんを書いてねっていうものではなくて、支援者の人も、持ってきてね、見せてね、これ書き加えておいてね、っていうような、この地域でこれからやっていこうと。いっぱいいろんなことを書くとか、見るんじゃなくて、お母さん、面談のとき持ってきてね、見せてね、これ書き加えておいてね、っていう3つくらいのことを今後この地域でやっていこうということをプロジェクトの中では確認しています。

具体的にこの地域でどうやって利用に向けてやっていくかということはこれから考えなくてはいけないんですけども、持って行ったけれど先生見なかったとか、持って行ったけれど放デイの方で今はいいよと言われたとか、そんなこともあるので、そこは利用に向けてということと、あとは親御さんがこれを書いて持っていることで、どんなメリットがあるかということのをこれから具体的に進めていきたいなと思っております。ご意見ありがとうございます。

○会長

相談の立場として、確かに自分から見せてと言ったことはないかと。学校と親御さんとの連携とかって、状況としては。

○厚木市自閉症児・者親の会

現場はどうなんですか。

○特別支援学校

すみません、私初めて知りまして。こういうのがあるんだということ、今初めて知りました。マイサポートブック、私今年から進路になったんですけども、担任のときでも。マイサポートブックのこと今知りまして。過去のことにはわからないんですけど、活用ができていなかったなというのが正直なところです。

○厚木市教育委員会

小中の就学支援を本課でやっておりまして、その支援に関わるところでマイサポートブックを扱わせていただいています。当然就学する児童・生徒の保護者の方にはマイサポートブックの話をさせていただきながら、その子が就学する学校の方にもお伝えはさせていただきますが、ただ学校の方でおしゃられるように、教員が積極的にそれを使おうとする姿勢になっているのかといわれるとなかなかそういう風になっていないのかなというのが現状としてありますので、今後は先生方への利用の促進というところで声掛けさせていただきたいと思っております。

○特別支援学校

一貫した療育・子育てプロジェクトの一番下にあります、医療的ケア児等における支援体制の構築に向けての情報交換に載っているんですけども、今現場の方で進路担当の方をさせていただいているんですけど、医療的ケア児の進路先が厚木市は今年度、来年度、その先もかなり厳しい状況になっておりまして、受け入れもかなり厳しくなっていて、市の方としても状況としてはわかっていると思うんですけど、今年度情報の意見交換とかなされているとしたら、どういうことが意見としてだされていて、今どういう風に事務局でもどういう風に取り扱っているのかお聞きしたいと思います、宜しくお願いいたします。

○事務局【厚木市障がい者基幹相談支援センター】

ご意見ありがとうございます。この一貫した療育・子育てプロジェクトは厚木市の医療的ケア児の支援、協議の場となっております。今年度第1回、第2回のプロジェクトの中で、厚木市内に寄せられている医療的ケアのある方の相談内容ですとか、事例についてお話させていただいております。

18歳までのお子様の課題として多いのが、保育所、幼稚園に入所、入園できないということですか、あとはお母さんたちが少し休息をしたいときですとか短期入所、レスパイトする先の確保などの相談が寄せられているということを第1回、第2回で報告させていただきました。今後協議の場として、幼稚園、保育園のことですとか、レスパイトのことについてこの市内でどうやって対応していったらいいのかということをもう少しコアなメンバーでワーキンググループで検討したいと思っております。

医療的ケアのある方の18歳以降、支援学校高等部を卒業したあとに通いの場がないというところも併せて考えていかなければいけないなあとってはいるんですけども、子育てプロジェクトだからといって、18歳以降のことを考えないというわけではないので、今後そのようなことも検討していかなければいけないなと思っております。(医療的ケア児コーディネーターの)厚愛訪問看護ステーション連絡会からも併せてお願いできれば。

○厚愛訪問看護ステーション連絡会

マイサポートブックの話ですが、自分たち訪問看護のところでも普及しきれていないのが現状です。というのも、それどころじゃない、って言ったら失礼なんですけど、退院直後から、ある数年っていうのは、そっちよりも目先のことでいっぱいというお母さまたちがおられて、その分厚いところを、記載していくのってたぶんすごい大変な作業になるんです。それで優先順位が下がってしまう状況なので。

前回のプロジェクト会議でも出て思ったんですが、関わる相談支援さんや児童発達、放デイといったところが、ちょっと面談だとか話す機会にそれをもとに話ができると、もう少し活用していけるんじゃないかなと、実際自分が関わるところで地道にやっていけるといいのかなと思いました。

前回もありましたけれど、災害の時も役立ったという話した他県であったんです。他県でマイサポートブックのようなものがあって、それをもとにヒントを得ながら、災害の避難場所で過ごせたという話があったので、支援する人たちが理解をしたうえでどう使っていける

のかなというところを一緒に考えていく必要があるんだろうと、さっきちょっと思ったところで、今のお話とはちょっと違ってしまうんですけどもお話させていただきました。

医療的ケア児に関して確かに厚木市はないんですね、生活介護事業所ってところがないんですね、うちのじいも9年前にできて、厚木市もう1か所できたんですけど、新規でも数年で埋まっちゃうんです。そうすると次の利用できる方たちが利用場所がなくなっちゃうんです。これってどうしたらいいのかっていう、各現場では頭を抱えてしまっている状態で、進路っていった先でもすごく困ってしまうんだと思うんですけど、今1か所だけでは無理で、市外も含めて2、3か所使わないとその方の生活のサポートができない状況になっちゃうんだなと、そんな中では市として考えていってもらわないといけないのかなと思っております。

現状のところ、うちも看多機（看護小規模多機能型居宅介護）とかもっているんですが、介護事業所のところでも生活介護の方を受け入れられるとか、ちょっと考えていかないと、先がないんだろうなということを考えております。さっき事務局がおっしゃってましたが、保育所とか幼稚園とか、レスパイト先の確保だとか、未就学のお子さんだとすごく進級するときの準備だとか、3歳、4歳のころから不安がいっぱいな状況っていうのが見受けられていて、市内外でも保育園といったところのお手伝いをさせてもらっているんですが、医療的ケア児の保育所というところが厚木市ではまだ進んでいない状況なので、そこに関しては協働としてやっていきたいなと思っております。

○会長

マイサポートブックはもっと活躍の場を意図的に支援者側も働きかけると、分厚いものではあるけれど、親御さんもがんばって書こうかなという気になるかもしれないし。

○厚愛訪問看護ステーション連絡会

そうですね、リレー小説って思うと、そこっていうのが大事なんだなと思ったので、世代のところに関わる関係機関って大事だなって思うので、やっぱり意識してそこを活用していかなくてはいけないんだなと。

○会長

医療的ケア児の進路を含めて一機関で抱え込むものではなく、地域で考えていくものだなと。ワーキンググループを立ち上げていくっていうところで、今後すぐ結果がでるかどうかっていうのはわからないですけど、今後この会議を含めて進捗状況を報告してもらえれば。

相談の方が児童の相談に数年前に受けさせてもらって、障害児の課題も相談支援専門員が見えてきたところがあります。この一貫した療育・子育てプロジェクトがすごくありがたかったのが、経験が少ない相談支援専門員が多いんですけども、放デイ連絡会が見える関係ができてありがたかったと、今日でてくるときうちの他の相談員が言っています。すみません、厚木市児童発達支援センターひよこ園、子育て支援の観点から。

○厚木市児童発達支援センター ひよこ園

ひよこ園で計画相談を始めたとき、情報とかわからなくて、事業所さんとかの情報もわからない、地域のこともわからないっていう状況で一步、一步、一つ一つのケースに携わっていくところから、一つ一つこう関りを広げていった感じなんですけど、ひよこ園に携わって一年目か二年目の頃放デイと児発の合同の説明会を開いた時があって、その時市内の事業所が一堂に会した感じだったんです。やっぱり一気にこうつながりが広がって、あの時は保護者の方を対象とした情報提供の場だったんですけど、あの場は保護者の方だけでなく事業所側もつながりを広げる意味では有益だったと思うので、そのあとコロナとかもあってやってなかったんですけど、またそういった機会が設けていただけると、お互いに顔の見える関係性ができて、何か困ったことがあったとき相談しあえたりすることができて、ああいった場がまたできるといいなと思っています。

マイサポートブックのことなんですけれど、ひよこ園の通所の方で新たに支援を始めるときマイサポートブック持ってきてもらってるんです。やはり一気にそのとき保護者の方が伝えきれない情報や、お子様の情報とかをみれるので、やっぱり助かるんです、情報を得るためには、保護者によっては初めての場所ですうまく伝えられないって方もいらっしゃるの、ああいったものを活用していった方がいいなと思います。

ただ一個反省点として、ひよこ園を卒園するときに新たに情報を付け加えることをしてなかったなと思って。卒園して小学校にあがって、新たな事業所を使うってときに次のところにこれ書き加えておいたから、持って行ってねとか、保護者の方に付け加えないと、あれがもっとうまく使えるようになるんじゃないかなっていうことを今お話し聞いていて、ひよこに持ち帰って伝えたいと思います。以上です。

○会長

グループホームのことでグループホーム連絡会が9月にあったということで、プラスで何かあったらですね。

○事務局【厚木市障がい者基幹相談支援センター】

グループホーム連絡会について、9月に初めてグループホーム連絡会というものを開催しました。今厚木市では20の運営法人さんがグループホームを展開されています。そのうち参加したのが、14の運営法人の方が参加していただきました。本当に第一回目、顔合わせというところでしたので、議題としては世話人の状況だったり、グループホームを運営していくなかでの困っていることってどんなことだったり。

令和6年度の報酬改定の中で地域連携推進会議というものが令和7年度に義務化をされるということで、そのあたりの進捗状況がどうなのかといったことだとか、あとは居住支援プロジェクトで支援者向け出張講座っていうのを作りましたので、そのご案内なんかも含めて全体的に討議をさせていただきました。

特に、地域連携推進会議というのは障がい者の入所施設だったり、グループホームにおいて、地域の関係者を含む外部の目を定期的に入れるということで、事業運営の透明性を高めたり、支援の質を担保する、そういう重要な会議ですので、それが令和7年度から義務化をされるということですので、入所施設やグループホームが地域との連携を深めながら事業運営に活かしていく、大変重要な事業になりますので、その辺を確認させてもらった次第になります。

グループホームの方で課題と感じていることが、利用者の高齢化が進んでいて、対応に苦慮しているということと、あとはさまざまな障がいの方がいらっしゃいますので、その個別性があったり、そこに対応する支援力というのが不足しているなということと、あとは週末の余暇の時間をどう過ごすのかということや、入居している人の居場所だったりということが不足しているなということが、どこのグループホームからも共通してあがってきていた課題だったなと思っています。

先程から言っている地域連携推進会議がどうかということですが、それについてはほとんどのグループホームの方でまだ検討段階にも至っていないということで、これから準備をするってことでしたので、国の方で地域連携推進会議の手引きというものがありますので、それを当日配布させていただいて、それに沿って準備を進めてくださいと情報提供させていただきました。

全体的な印象としては、非常に一生懸命支援していらして、苦勞されているんだな、という印象を受けました。ただ、どこのグループホームも自分たちの中で解決しようとか、なんとかしようとか、そこで支援の限界を感じて行き詰まり感を感じているんだなということがわかりましたので、特に先程の日中支援型の方がおしゃってましたけれど、サービス管理責任者が多職種、横のつながりですね、横の広がりや関係性をサービス管理責任者の方がどう

やって作っていくかっていうことだったり、地域の中のネットワークをどうやって作っていくかということサービスを管理責任者の方が意識をして、それを土台にしてそれぞれのグループホームの支援が展開されていくことを意識づけしていくような連絡会にしていければなと思っています。私からは以上です。

○会長

今後連絡会で話し合っ欲しいことなどもしあれば、厚木地区知的障害施設連絡会、いいですかね。入所施設から地域移行というあたりで。

○厚木市知的障害者施設連絡会

神奈川県からも入所施設に関しましては、縮小というか、県立の施設が中心ですけども、地域移行ということで、方向性が示されつつその過渡期にあるところでございます、入所施設の利用者さんも地域移行、どういうところで暮らしたいかということ意思決定支援等を通じてですね、お一人ずつこれから確認をしていくという段階でして、なかなか重度の知的障害の方の地域移行ということでですね、ハードルが高くてですね、第一回のグループホーム連絡会の方でも我々も参加をしてきたんですけども、民間の株式会社のグループホームさんも増えていて、社会福祉法人が運営するグループホームの方が数が増えていない、思ったよりも増えていない、民間のグループホームさんの方が勢いがあるんですね、地域移行の利用者さん、その民間のグループホームさんの方にたいい満床だったりするんですけども、我々社会福祉法人が運営するグループホームですね、若干空きがあったりですね、なかなか営業活動が上手じゃないのか、なかなかうまらない状況もあったりして、事業所によってはもう閉鎖するといったところも数件、ここ近年出てきている状況でございます。

グループホームを増やしたいんですけども、福祉従事者含めてなかなか人が集まらなくて、新規で開設しようとするところにはかない法人というか、あるという印象でございます。グループホームのオーナーさんを探したりして、新規のグループホームを設立したいところなんですけれども、昨今の物価高というところですね、新しく建ててもですね、家賃等を上げるといってもいかならずですね、経営という部分ではオーナーさんもですね、前向きになっていただけないという経済状況が新しくグループホームを設立しようとする勢いがなくなっているのかなという印象でございます。

○会長

空いていたり、閉鎖するグループホームもあるんですね。もったいないですね。職員が課題ですね。地域移行っていう、精神科病院からの地域移行っていう立場で何かこう課題とかがありますか、神奈川県精神科病院協会、何かあれば。

○神奈川県精神科病院協会

やはり入院している患者さんが地域にでるっていうことは、圧倒的にグループホームが多いです。アパートに単身で生活していた人が、やっぱりだめで病院に戻ってくるっていう人もかなりの数ありまして、そういうときに次どうしようかってときにグループホームがいいんじゃないのってなるのが、最近の傾向があります。

それで、最初に言われたようにアパートを借りるのも今はあの一、十年くらい前を考えると、比較的入りやすいんですけどもただ、病状として継続して単身の生活していくのが難しい人がなかにはいるんで、そういう人はやはりグループホームで支えてもらうのが現状だと思います。以上です。

○会長

病院から地域にすることで退院されて、地域でいろんな支援を受けながら地域で生活されていく流れではあるんですけど、厚木市・愛川町・清川村地域精神保健福祉団体連絡会、グループホームのこと知っていると思うんですけど、まあ退院後、地域移行してからの生活をみて課題というか、大切なこととかあれば。

○厚木市・愛川町・清川村地域精神保健福祉団体連絡会

本音でいいですか。精神障害の方、退院するときグループホームっていうのが一番多い選択になるんですけども、この会のアンケート取った時に、精神障害の方がグループホームかアパートかっていうときに、アパートの方が多かった気がします。

支援者側から考えるとグループホームに入ってもらった方が安心するんで、どうしてもそっちが優先になるんですけども、当事者の方の本音は普通にアパートで暮らせればそれが一番かなと思ってらるんで。

それでうちにも一人ちょっとグループホームかアパートを探している人がいるんですけど、不動産屋行ったり、グループホーム見学に行ったりしてるんですけど、本人もやっぱりあんまり束縛されずに自由に暮らしたいと言って、やっぱりアパートがいいって言うんですけど、今アパートを第一希望として探しているんですけど、その時にアパートで単身者にどういった支援が入ればいいのかっていうのを考えていきたいなって思っているんで、あの確かに現金が必要な人は確かにいますし、うちの法人のグループホームやっていないんですけど、今後は考えていきたいんですけど、あのそれは両輪が必要で、グループホームも必要、アパートで普通に暮らす支援も当然必要だと思っているので、そういった体制が必要かなと。

現金の話でグループホームの方がちょっと安くすむんですよ、家賃補助があるので安いのはわかっているんですけど、4万くらいのところが2万くらいですむ。アパートに入ると4万、5万はかかる。なので生活が苦しい。結局ホームを選んじゃって、もう4、5万生活費があればみんなアパートで暮らせるだろうなって。自分で考えてみても、どっち入ってなったときに、みなさんも調べてもらっていいですか、グループホームにするかアパートにするかってなったときに、だいたいの方は自由に暮らしたいなってなって、まあそれが障がい者の素直な気持ちなのかなって思っ。ただ両方を考えていかなんといけないのかなと思っ。まあ両方を考えていかなくてもいけないのかなと。

○会長

アパート探し、しやすくなったというのがあると思うんですけど、精神障害の方で普通の集合住宅、壁1枚横には人が生活しているアパートに住むと、生活音っていうのがすごく気になってしまっ病状が悪化してしまう、地域での生活が続かないって人がいらっしやっ。入退院を繰り返した方がいらっしやっ。平屋の家って普通の1階建ての家なんですけど、今ほとんどないんですけど、そこに退院したらほとんど音がきにならなくなった、生活が継続した方がいらっしやったんですけども。老朽化でいよいよ崩れそうで、いざ探そうってしてもないんですよ。

あと病院の近くに住みたいとか、デイケアの近くに住みたいっていう、なかなかないんですよ。最近実感していて。見つからない時代から支援していて、ぜいたくな悩みだなと思っ。グループホームの支援が居住支援プロジェクトを含めて始まっていく中で、アパートでの支援も厚木市・愛川町・清川村地域精神保健福祉団体連絡会がおしゃった通りで移行支援も考えていけたらいいかなと思っ。

他、いくつかあれば。気になったのが防災プロジェクト、障害のある方の地域とのつながりというのが大事で防災チェックリスト、3.11の地震のあとにできたプロジェクトで作成されてたかと思っ。自助、公助、共助のところの自助のところを力を入れていこうと、チェックリストの作成の目的に障がい当事者が地域とつながっていくということが大きな目的だったと思うんですけど、地域とつながっていくというところで、意外と難しかったりするんですけど、なんかいい手立てというのがあるかなと思ったりするんですけど、包括支援センターさん、地域とつながりがあって、私はすごいなと思うんですけど、なんかありますか。情報だけでなく相談でもすでにつながっていらっしやると思うんで。

○厚木市地域包括支援センター

高齢者の方はうちのエリアは地域ごとにちょっとした月1回のミニディとか開催して、昨年度は地域の防災訓練時に、災害時に一般の方が車椅子を押してそういった手助けができるようになっていうのもあって、南町とかでいったんですけれど、で地域の方で障がいがある方もぜひ参加していただきたいということで、アナウンスはしていらっしやっただけけれど、実際はなかなか集合場所がよくなかったってことで、河原というところで参加はしていただけなかったんですけ、地域の方もそういったものに参加していただけるように、声かけはされていると感じますけれど。

○会長

一番地域に身近なところで、厚木市民生委員児童委員協議会、地域住民として近い立場にいらっしやると思うんですけれど、障害のかた、地域とどうつながれるかってことを何か、意見というか。

○厚木市民生委員児童委員協議会

実はですね、避難行動要支援者の関係なんですね。自治会の中でちょっと話をしたんですけれど、ほとんどの方がわからないというか、個人情報との関係でほとんどだしてない、という形なんですね。ですから、ちょっときになったのがこの名簿を活用して障がいのある方と地域とのつながりを検討されているようなんですが、実際に自治会の方に行くと、それは全然つながれない、私たちも名簿というか、お話ができないという現状になってますんで、その辺がどうされるのか、逆にお聞きしたいと思うんですけれど。

○事務局【厚木市障がい福祉課】

担当課ではないので、この場ではお答えができません、申し訳ありません。本件について担当課の方にお話しさせていただきますので、この場では控えさせていただきます、申し訳ありません。

○議長

なかなか難しい課題というか、ですね。

○精神保健福祉促進会フレッシュ厚木

長期入院者がどうやって地域に移行していくかというのはとても大事なことなんだと思うんです。精神障がい者、厚木市、長期入院者、おそらく200名ほどいるってお聞きしたのかな、ちょっと1級の人の人数くらいがそうなのかなと思うんですけれど、やはりこれだけ、厚木だけでも多くの人が長期入院しているっていうのがちょっとおかしい、それがあたり前だったというのがどうしてもちょっとおかしいなって思うんです。

じゃあどうしたらいいのかってことをいつもいつも考えているんですけれど、なかなかこれをすれば大丈夫ってことがなかなかなくて悩むんですけど、先程も厚木市・愛川町・清川村地域精神保健福祉団体連絡会おしゃってましたけど、本音、当事者の本音ってグループホームじゃなくてアパートっていうのは本当にまさにその通りでして、正直グループホームに入りたいって人、精神障がい者であまり、そんなにいないんじゃないかと思うんです。

うちの息子も長期入院しておりまして、30歳という若さもありますし、このままじゃもったいないんで、どうにかしてもうちょっとなんとかしたいと、考えているんですけれど、本人はやっぱり、こちらの目からみたら無理なんですけれど、やっぱりアパートなんですね。アパートに行きたいって言うところが壁になっちゃって、グループホーム嫌だって言うので、やっぱり退院の話は進まないんです。どう自信があるのかわからないですけど、とにかくアパートがいい。自宅で親とっていうのもまだそれもっていうのがあって、自由に。なぜだかできる、ってなだか知らないけどできるってところがあって、どう見てもいろんな技術が必要ですから、一人で暮らすって。全然無理だと思うんですけど、ただ支援があれば確かにできるなって、思うんですね。

厚木市・愛川町・清川村地域精神保健福祉団体連絡会もおっしゃってましたが、どんな支援があれば長期入院者の人が地域にでて、希望通りアパートで暮らせるのかっていうのをみなさんのお力を借りてぜひぜひ、みんなが退院できそうな人はどんどん退院した方がいいと思うんです。そしたらね、医療費も負担も市も軽くなるはずなんですよ。それを住居費用に回せないかな、とか

思うんですよ。必ずアパートって言葉がでてくるんですよ、なんでアパートじゃなきゃいけないのかなって思って、アパートってやっぱり作りが薄かったりして、壁の向こうがお隣ってなったら精神障がい者の人ってとにかく音に敏感でそういうの気にしてまた妄想がはじまって、体調崩すってことが目に見えているので、なんでアパートなんだろうなあって、アパート、マンションじゃダメなのとか。ちゃんと防音設備のある、マンションに精神障がい者向けの、なにか防音に気を使ったマンションができないかなって。それって建築費が高いと思うんですけど、入院費が浮く代わりにそういうのに助成するとか、なんかそういうのができれば本人もハッピーだし、親もハッピーだし、なのに、どうしてアパートなんでしょうかっていうのが、もうちょっと設備のばっちりしたマンションができればいいのって思ってます。

○議長

そしたら、息子さんが退院して1人暮らしをするっていうイメージのアパートがあって、そこはなかなか変えることができないと思うんですけど、そこがこう変えていけるときのサービスとしては地域移行支援が半年、基本の期間が半年なんですけれども、そこに院内にはない、外部の相談支援専門員が定期で病院に訪問して退院のイメージをつけていくっていうのが地域移行、事業としての地域移行のイメージなんですけれども。

○精神保健福祉促進会フレッシュ厚木

厚木はまだ、実績0だと思うんですけど。

○議長

何人かは。

○精神保健福祉促進会フレッシュ厚木

何人かはいましたっけ。なんで厚木市はそんなに少ないんだろうなって思うんですよ。だから使いづらい制度なのかなとか、思うんですけど。どうなんですかね。あの、入院している遠寿の方がそこにいますけれど、なんで進まないのかなあって思いました。利用者がなぜいないのか。200人くらい長期入院いるんだから、実績が0、0、0っておかしいでしょって。家族からすると思うんです。毎年50人くらいいいもいいいんじゃないのって。本気でやる気があるのって。法律に基づく制度だと思うんですけど。

○議長

市全体で言うと、退院自体は何人もされているんですけど、地域移行支援事業を使って退院をしていく方が少ないということではあるので、退院が進んでいないわけではなく、支援がないなかで退院する方もいれば、支援、手厚い支援を受けて退院していく方もいて、その退院先がアパートかもしれない、グループホームかもしれない、という中でどのくらい退院しているという数字はでていないかもしれず、事業として、地域移行支援事業としての数だけがクローズアップされている部分だけが目立ってしまっているんですけど、わかりにくい制度ではありますね。

○事務局【厚木市障がい者基幹相談支援センター】

居住支援プロジェクトを担当しております。精神保健福祉促進会フレッシュ厚木の意見本当にそうだなと思いました。地域移行の数、0ではないんです。私も何回も病院の退院支援、地域移行支援で取り組んでいますし、他の方もやりました。

現状と体制で、相談支援センターが8か所ありというところで地域移行支援の方がいないだ

けで、どうしていないのかっていうのは、指定一般という登録をしていないと地域移行の事業できないんですね。

指定一般っていう事業所さんて4カ所あるんですが、その方を集めて意見交換会をしたんです。そしたら地域移行の事業ってやるの大変じゃないかなって、あと期間限定なんですね、6か月っていう期間で退院させなくちゃいけないんですね、延ばせるんだけど期間あってやりにくいっていう、マイナスイメージが大きかったんですが、それも制度の内容をよく知っていなかったってことがよくわかったので、そこでプロジェクトでですね、制度をもっと普及啓発していこうということと、あと書類も多いんです。

だから、地域移行だけやってる相談員さんじゃないんですね、みなさん一般の相談を受けたり、計画も作ったり、ということでやってることが多いんだけど、でも今やることを優先させてというところがあるんですけど、病院さんにも伺って、長期入院している人が対象で良いと思う、長期入院しててもう出れるよ、安定して暮らせるよって人を対象としてどうですかってお伺いして。ただ今は3か月で急性期は退院って方向で流れていて、そこは別で考えた方がいいんじゃないかと思いました。

でも、本当に相談支援センターや事業所の方は、地域に出そうといっぱいやってらっしゃいます。私も含めて、感謝してるんですが、もし地域移行の制度をよく知っていたらね、相談支援センターの方たちがですね、患者さんをみて、もしかしたら、この人地域移行できるかな、アパートが向いているんじゃないかなって思うことが大事なかもしれない。制度を知っていればこの選択肢の一つとして、使えるかなと思って、取り組みとしては今年、来年に向けて、地域移行の事業を進めるために相談支援センターの方と一緒に書類を作ったりとか、提供したりして、情報共有をしていって、やって行ければなと思っています。

それから、もう一ついいですか、私も退院支援で病院に行くんですが、ここ5、6年はアパートに暮らす人が多かったです。それは本当に希望されたんだと思うんです。ところがここ数年はグループホームっておっしゃるんですよ。家族としては措置とか、医療保護とか、一生懸命入院していただいたのが、ここで退院、なんにもない、自由な生活って不安なんです。それで本人説得して、もう退院だよって方もおられるし、僕は自信がないからまずはグループホームがいいですよって方もいらっしゃいます。

私、何人も何年も支援していて、グループホームにいったん入りました、でも自分で自信がついてくると、グループホームから地域に行きたいって、ことがでてきて、今もそうです、その方とグループホームと相談して不動産屋を探したりして、ってことをやりつつありますので、グループホームでいったん自信をつけてから、地域のアパートで暮らすってこともありますので、人それぞれかもしれませんが、一概に絶対グループホームではなくて、アパートだよってことにもなるのかなってことを情報としてちょっと考えていただければと思います。ありがとうございました。

○議長

これは、課題ではありますね。

○精神保健福祉促進会フレッシュ厚木

グループホームかアパートかっていうのが気になる。もうちょっとちゃんとした住居じゃなきゃっていう選択はできないのかなって。やっぱりアパートだと隣の音がすごく聞こえちゃいますよね。そこでくじけちゃったらもったいないし、もちろんグループホームもそうなんですけど、そういうこと思ったりしています。

(3) 厚木市障がい者福祉計画（第6期）指標の報告

質疑応答

○厚木市自閉症児・者親の会

医療的ケア児の生活介護部分の数という部分で、目標数というか、ショートステイの利用日数もそんなに、増えてはいるけど場所がない、利用できる事業所がないっていう部分は市としては今後どのように考えていらっしゃるのでしょうか。増やす、増やす方向しかないと思うんですけど。

○事務局【厚木市障がい福祉課】

第6期の指標にはそれがないんです。取組3、メディカルショートステイは以前はなかったんですね。メディカルショートステイというのも医療的ケアのあるお子さんのご家族の冠婚葬祭、保護者のケガとかそういう時しか使えないので、常時、何かに使われる、緊急時は常時起ってほしくないですし、なかなか右肩あがりに伸びるよってという指標ではないですね。

ただ、7期で盛り込まさせていただいた中では、医療的ケア児が居場所として短期入所をどんどん増やしていきたいというところではあります。実際、現在共同生活援助の日中サービス支援型の事業報告とか、新規の開設を報告をお聞きいただいたところで、新規のところは医療的ケアを受け入れられる事業所なんですね。1床しかないの、明らかに増えるというところではないんですけども、医療的ケア児の居場所というところで、第7期には盛り込まさせていただいています。その新しい事業所さんについても生活介護ができないかと聞いております。ただ厚木市で新たにやる事業所になるので、実績がないじゃないですか、そこがリスク面にもなりますが、再度お願いできればと考えているところでございます。

プラスアルファ、今後日中活動支援型で医療的ケアに対応した事業所を新たに作りたいという相談もございます。厚木市の方で施設を設けるとするのは難しいんですが、徐々に増やしていくためにお声がけですとか、厚木市に話を聞いてもらうという取り組みはがんばって行きたいなと思っております。なかなか難しいとは思いますが。

○厚木市自閉症児・者親の会

よかったですね、先生、少し光が見えてきましたね。もうひとつあるんですけど。

社会参加の促進のところの外出支援の充実ところなどで、下段のタクシー券、ガソリン券がそんなに増えてないのはなんでかなって思ったのと、「外出について特に困っていることが特にないと思う人」の割合が増えないというのはやっぱり移動支援の事業所がないと思ってい

○事務局【厚木市障がい福祉課】

移動支援使っているからタクシー券ダメですよってことではないですし、自分でチケットを使って移動できる方もいらっしゃるかもしれませんし。これは関連して伸びないというわけではないかなと。タクシー券が伸びないっていうのは中でも検討しなくてはいけないなと思っております。

「外出について～」ですが、やはり移動関係のサービスが、当然余暇なので、自分が行きたい時間に利用できる事業所が少ないというのはありますので、もう少し事業所が増えてもらいたいですし、移動支援を事業所さんがやっていたらルール作りですとか、もう少し検討しながらと考えております。

○厚木市自閉症児・者親の会

移動支援が少なく困っているという自閉症を持つ子どもの親がの声が多くて、事業所が減るばかりで、あったらいいなっていう声が多いです。よろしくお願ひします。

(4) その他

ア 神奈川保健福祉事務所

貴重なお時間いただきまして、広報させていただければと思います。みなさまのお手元に資料と一緒にチラシ1枚配らせていただきました。内容といたしましては少し重たい内容になると思うんですけど、看取りというものをテーマといたしました研修会を12月20日にですね、私共の合庁の方でですね、開催させていただく予定になっております。社協

さんとか、地域包括ケア推進課さんとか、民生委員さんだったりにお配りさせていただいておりますが、その他事業所さんにもお配りさせていただいております。もしかしらどこかでお目にかかってらっしゃる方もいるかもしれませんが、恐縮ですが、看取りというものをテーマにいたしまして、全国でこの看取りをテーマにした講演会や研修会を行っていらっしゃる先生をお招きして、あのこの方看護師の免許をお持ちで、さらにご自身お若くしてがんでご主人を看取られたという経験を持っておられる方で、その看取りを契機にちょっと看取りという考えを深くお持ちになられてこのようところで修業もされまして僧侶の資格もお持ちになって、それを契機にスピリチュアルケアというということを普及啓発されている方で、いろんなところで広められている先生をお招きいたしまして、看取りについて皆さんと一緒に情報交換や情報共有させていただければと思ひまして研修会を開催させていただきますので、ご所属はもちろんです、友人、知人にこんなのあるよと広報していただければ幸いです、よろしくお願ひいたします。ありがとうございました。

イ 事務局【厚木市障がい者基幹相談支援センター】

ふれあいシンポジウムの担当を今年度も担当させていただいております。カラフルなチラシ今日入れさせていただいております。基幹もいよいよ第9回目のシンポジウムとなりまして、作っているうちに来年どうしよう、10回目、来年10回目だなというところで、まずは9回目ということで、3か月後になりますか、あと2ヶ月ですね、12月7日土曜日にこの場所でシンポジウム行わせていただきます。

昨年講演させていただきました、毎日新聞社会部の記者の山田奈緒さん、記者をやったグループホームの夜間支援もやってらっしゃる方で、来られた方は聞かれたと思うんですが、ご自身のお姉さんが難聴、軽度の知的、統合失調だったかな、精神の手帳を持っておられて、グループホームに入ったよというところまで聞いたのが1年前ですね、そんな話があらわれて、その続きになるかはわかりませんが、原点回帰ではありませんが、広く障がいのことについてもう一度考えてみようよという形で、また山田さんやっただけということをお願いしております。第2部ですね、続けてそのあとから居場所の紹介という形で、そこにある4ヶ所にきていただく予定で短い時間ではありますが、少しお時間いただいて、紹介をするという形を取りたいと思っております。寒い時期になりますけれども、ぜひみな様ご参加いただければと思ひますのでどうぞよろしくお願ひいたします。以上です。

ウ 厚木市地域包括ケア推進課

今日チラシはお持ちしてないんですけど、当課においても地域版の市民講演会という、今年は厚木地区なので、寿荘、図書館、中央図書館が入っているビルの5階ですね、横浜市内の先生をお呼びして、意思決定支援ですので、私たちが最期どんなことを望むのかってことの大切さについてご講演いただきますので、10月14日月曜日、確か月曜日になっております、詳しいことはホームページ、厚木市のホームページに載っておりますので、まだ空きがある感じですので、ご参加いただければと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

エ 事務局【厚木市障がい福祉課】

今日は大変貴重なご意見いただきましてありがとうございました。私共の政策に活かして参りたいと思ひます。皆様に承知だけしておいていただければと思ひまして、お知らせさせていただきます。

現在私ども、来年度予算の関係で予算の積算を行いまして、財政部局に予算を請求している段階です。来年度、現段階で障がい福祉予算、85億7千万円を要求しております。これは6年度、今年度よりも、12億4千万増加している状況、日中系サービスの見込みが

増えるのではないかという見込みとで 12 億 4 千万の増加ということで要求をしております。

財務部局との予算折衝、いくらお金を予算を確保できるかはわかりませんが、障がい者の大切な地域生活、社会生活を支える大切なお金ですので、私共しっかり確保してまいりたいと思っております。今日みなさまからいただいた熱い思いを、財務部局にぶつけないと思っておりますので、頑張りたいと思っておりますので、承知だけしておいていただければと思います。よろしくお願いいたします。

オ 事務局【厚木市障がい者基幹相談支援センター】

チラシを持ってきてないんですけども、みなさんにお知らせしたいことがありまして、ちょっとマイク借りました。さっき厚木市地域包括ケア推進課が教えてくれた研修の日にち聞き洩らしたので、もう一度教えてもらってもいいでしょうか。(厚木市地域包括ケア推進課：10月14日、月曜日ですね、祝日の月曜日)

ありがとうございます。私からは医療ケアの関係で、神奈川県医療的ケア児支援センター県央圏域相談窓口主催の研修があります。日にちが10月30日水曜日です。場所が厚木市にあります、神奈川工科大学のKAITタウンというところで、すごくいい場所がありまして、そちらで行う予定です。

内容は医療的ケアのあるお子さんの災害時の電源確保ですね、どうやって呼吸器だったりとか吸引機だったりとか、そういうものが必要なお子さんが電源を確保するのか、停電になったときどう対応するのか、という研修になっております。難しい内容ではなくて、当事者の方に発表してもらったり、工科大の先生に電気について教えてもらったり、実際に電気自動車から電気を取ってきてコードにつないで、デモの機械につないでみたり、そんなデモも行う予定で、Zoomと会場集合でやる予定になっております。来週にはチラシが出来ると思うので、お配りしたいと思いますのでぜひ、ご参加いただければと思います。ありがとうございます。

3 閉会

副議長から閉会の挨拶

以上